

みんなの広場

市社会教育研究大会

地域、学校、家庭が連携した地域づくりを

地域力を生かして絆を深める公民館活動を目指し、立花公民館で市社会教育研究大会がありました。NPO法人ふくおかNPOセンター代表の古賀桃子さんが、各地での興味深い取り組みや『学び』づくりのポイントなどについて講演しました。続いて行われた実践発表では、山代・松浦公民館の活動や、青少年育成事業についての報告がありました。



↑『草の根から、社会を描く。』をキーワードにNPO活動を展開している古賀さん

伊万里の“いい職”説明会

求めています。あなたの力

伊万里の“いい職”説明会がロイヤルチェスター伊万里でありました。就職を希望する高校生や大学生などに、地元での就職に関心を持ってもらおうと開催されたもので、111人が参加しました。3つに分かれた会場を順番に移動しながら、参加者は、地元の優秀な人材を求める市内21企業の説明を、真剣な眼差しで聞いていました。



↑企業の担当者の話を熱心に聞く高校生などの参加者

ふれあい障害者文化祭

障害のある人が活躍できる社会に

市民センターで、市ふれあい障害者文化祭がありました。式典では、障害者を支援する施設や事業所、団体などによるコンサートがあり、障害のある人もない人も、それぞれに練習を重ねてきた歌や踊りを披露して楽しみました。また、障害のある人が制作した絵や書などの力作が並ぶ作品展も開かれ、来場者は感心した様子で鑑賞していました。



↑コンサートで、東京2020の応援ソング『パブリカ』に乗せてダンスを披露する『いまりの里』の皆さん

住民主体の避難所運営訓練

誰もが安心できる避難所のあり方は

大規模な災害に備え、住民が主体となって避難所を運営するための訓練が市民センターでありました。訓練には伊万里地区の住民約70人が参加。避難所運営の課題やその改善策などに関する講演のほか、班に分かれて避難所運営について話し合うワークショップや実技訓練を行い、参加者は多様な避難者に配慮した運営のノウハウを学びました。



↑避難所で車椅子がすれ違うために必要な通路幅を確認

いのちの奇跡を伝える講演会&写真展

生まれてきたことは奇跡なんです

ママフォトグラファーの やまぐち ゆか さんによる『いのちの奇跡を伝える講演会』が、市民図書館でありました。妊娠中にお腹の中の子どもを亡くすというつらい体験をしたやまぐちさん。生まれ育って生きていることは『当たり前』ではなく『奇跡』であることを、出産を心待ちにする妊婦やその家族を撮影した写真とともに伝えました。



「起こることすべてに意味がある」と語るやまぐちさん



↑同日始まったやまぐちさんの写真展にも多くの人が足を止めて見入っていました

栗木谷窯跡発掘調査現地説明会

磁器の焼成を模索していた窯跡

工業団地整備事業に伴い実施していた、松浦町の栗木谷窯跡発掘の調査内容を報告する現地説明会がありました。窯跡は肥前磁器生産の開始から間もない1600年代初頭のものと言われ、半磁器化した陶片が出土するなど磁器の焼成への試みが見られる貴重なものです。市内外から60人が参加し、興味深そうに説明を聞いていました。



↑栗木谷窯跡の前で説明を聞く参加者

おもてなし&ビジネスマナー講座

おもてなしの『心』を届けます

市観光協会と伊万里商工会議所が主催する、おもてなし&ビジネスマナー講座が市役所でありました。市内の企業・団体などから約131人が参加。日本航空株式会社から2人を講師に迎え、観光客の満足度を高めるおもてなしの五原則（あいさつ、表情、身だしなみ、立ち居振る舞い、ことばづかい）や、ビジネスマナーなどを学びました。



自分が受けた良いおもてなしの経験をグループで話し合い

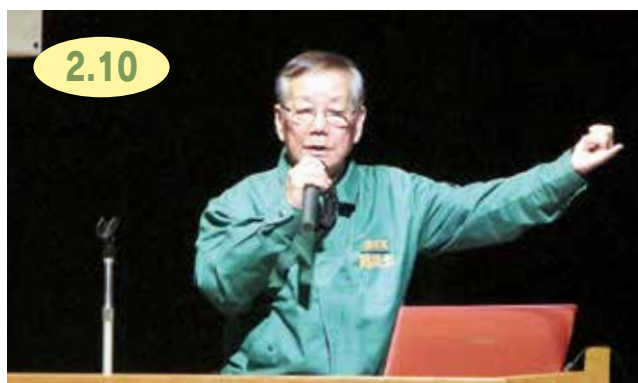


↑相手に良い印象を与えるお辞儀しげまのしかたを練習

市防災講演会

災害は忘れないでもやってくる

市防災講演会が市民センターであり、地区防災委員や消防団員、県防災リーダーなど335人が参加しました。防災に関する情報の伝達方法など市からの連絡事項のあと、県防災士会運営委員の林眞敏さんが講演。災害の種類に応じた具体的な備え方などを解説をしながら、自分たちの地域は自分たちで守るという共助の大切さを訴えました。



↑「自分だけは大丈夫と思うのは悪い癖」と話す林さん